

「入社して5年後(10年後)どうなっていたいですか？」

<https://ameblo.jp/vic-okinawa/entry-12336780661.html?frm=theme>

2017年12月16日

テーマ: JAL

「あなたが弊社に入社して5年後、10年後にはどうなっていたいですか？」

これはよくES や面接で聞かれる質問です 🙌

皆さんならなんと答えますか？

下記の記事では、JAL の CA が客室品質企画部に移動になり、地上で仕事をしている様子が紹介されています 🙌 ✨

この方は、2年間国内線を担当し、入社3年目に国際線へ移行、その後は入社5年目に国際線ファーストクラスを担当できる社内資格を取得。入社10年目にクラス責任者などを務められるリードキャビンアテンダントに昇格その後、客室品質企画部へ移動しています 🙌

記事を参考に、あなたなら〇年後どうなっていたいか、考えてみましょう ✨

「私が伝えないと全 CA は知り得ない」特集・JAL 機内食担当 CA 田村真未子さんに聞く

田村さんは2016年5月に客室品質企画部へ異動。機内食について、客室乗務員へ周知する資料作りなどを担当している。

普段はデスクワークと縁遠い客室乗務員にとって、オフィスでの仕事はどのように映っているのだろうか。そして、機内食に携わる人たちと客室乗務員との橋渡しをどのようにしているのか。田村さんに聞いた。(中略)

田村さんもほかの客室乗務員と同様、2年間は国内線に乗務し、2006年7月に国際線へ移行した。その後は2008年12月に、国際線ファーストクラスを担当できる社

内資格を取得。2014年5月には、クラス責任者などを務められるリードキャビンアテンダントに昇格した。

田村さんが今担当している仕事は、客室乗務員と機内食に携わる人たちの橋渡し役だ。「新人のころは、客室乗務員がこうした仕事に関わっているとは知りませんでした」と、経験を積む中で今の仕事の存在を知った。

異動の内示が出たのは、2016年4月中ごろ。「客室品質企画部は、部内でいろんな担当に分かれているんです。部署を聞いて、何をするんだろうと思いました。フライトも楽しくて充実していたので、不安がいっぱいでした」と、地上勤務には心配な面もあったという。

デスクワークになれば、機内とは違ってパソコンを使いこなさなければならない。「今まではiPhoneをつないだり、写真を取り込んだりといった程度。大学でも卒論くらいでしたね」と田村さんは笑う。客室品質企画部の仕事そのものは、同期の仕事を通じて知っていたことから、責任感を持ってやらないといけないと感じていた。(中略)

客室乗務員の地上勤務は、おおむね2年程度。任期を終えると、再び乗務に戻る。田村さんはこれまで、フライトが楽しく、客室の責任者である前任客室乗務員(チーフパーサー)などの目標を持つことはなかったという。

「地上業務をしていると、前任客室乗務員にも興味を持つようになりました。いろいろな仕事が見えると、考えが変わりますね」と、現在の仕事に携わるようになって生じた気持ちの変化を感じている。

そして、客室乗務員を目指す未来の後輩に対しては、「英語の勉強だけではなく、お客様相手の仕事なので、普段から相手が何をしたいのかを察することが大事だと思います。こうしたことが、良いサービスにつながるのではないのでしょうか。まわりの人を思う気持ちを大切にしてくださいね」と期待を寄せる。

(<http://www.aviationwire.jp/archives/136360> より抜粋)